

第3章

本県における地域ケア会議の実践事例

1 「地域の御用聞きから住民主体の地域づくりへの展開」

- モデル地区での取り組みから報告 -

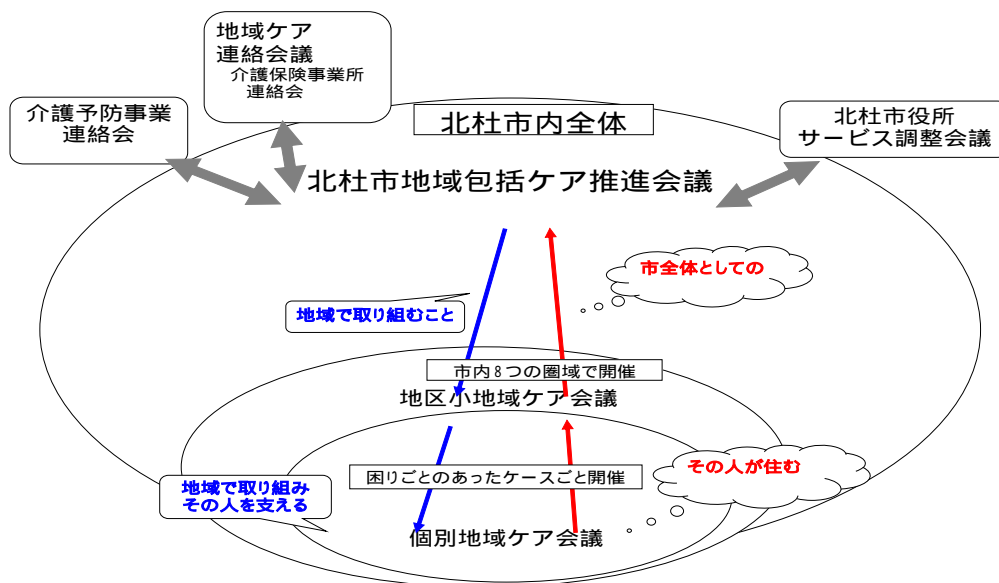
篠原美幸（北杜市地域包括支援センター）

1) 北杜市の現状と地域ケア会議の取り組み

北杜市は平成16年に7町村、平成18年に1町が合併し人口5万人弱、県で最も面積の大きな市となりました。平成25年4月1日現在、人口は48,874人に減少、高齢化率は32.1%で、県内で7番目に高齢化率が高い状況です。

高齢者は住み慣れた地域で出来る限り生活したいと希望する人が多く、1人暮らしや高齢者世帯が増える中、高齢者が気軽に集える場所が求められています。

地域包括支援センターでは、介護保険外サービスを含めた様々なサービスを包括的・継続的に提供出来るような地域の体制を作るために、平成23年度から地域ケア会議に取り組み、地域課題を把握するため個別地域ケア会議を積極的に開催しました。個別地域ケア会議の積み上げから、各地区で小地域ケア会議を行い、地域課題を検討し、高齢者が住みやすい地域になるような企画立案につなげていくというような「地域包括ケア推進会議」を推進していきたいと考えました。



2) 県アドバイザー派遣事業とモデル地区等への取り組み

市では地域包括支援センターを中心に、地区民生委員との話し合い等小地域ケア会議について取り組みを進めてきましたが、各地区における（旧町村単位）小地域ケア会議への取り組みが課題となっていました。平成25年度はモデル地区を決め、小地域ケア会議の開催を考えていましたが、小地域ケア会議にどう取り組めばいいのか等についてアドバイザー派遣事業を活用し、検討をしながら取り組みを進めることにしました。

最初にアドバイザーから指摘されたのは、「地域ケア会議は方法論、会議をすることが目的になっていないか。」「そもそも小地域ケア会議はしなければならないのか。」「専門家が考えている問題意識を住民が持っているかどうか、地域が課題を課題として感じているのか。」「住民が変化するためには行政側の人間が変わる必要もある。」という事でした。また、モデル地区にまず「御用聞き」に行ったらどうかと提案がありました。

「御用聞き」という言葉をどう解釈すればいいか戸惑いましたが、まずはモデル地区で住民の話を聞く機会を持つ事（御用聞きの実施）、地区への取り組みは地域包括支援センターと介護保険担当が複数で関わられるように課内調整をする事、民生委員が12月に改選になるため、各地区民生委員が活動により感じている地域課題等をアンケートで確認する事にしました。「御用聞き」については、地区から要望がたくさん出され、後で対応が困るのではないかと心配もありましたが、「地区を知る・語ってもらう」「安心して元気に暮らし続けるために地区のことをどう考えているか教えて下さい。実情を教えてください。」という姿勢で取り組み、出された地域課題は住民と一緒に考えていこうというスタンスで実施することにしました。

このモデル地区の取り組みにより、地区の関係者とのつながりや関わりが持て、今後も継続して行う事になった「語る会」や「公民館カフェ」、地域での自主的な集まりが住民の中から生み出された事等に大きな意義や成果を感じています。

「御用聞き」から住民主体の地域づくりへの展開を支援するためには、住民主体で地域が動くようなサポートの仕方（最初はリーダ-として関わり、徐々にファシリテーターとなり地域を見守っていく）が必要な事を学んだ気がします。

3回実施した検討会においていただいたアドバイザーの御指導や助言が励みとなり、上手く行かない事等もありましたが、諦めずにチャレンジし取り組んだ事を評価していただき感謝しております。

北杜市には、モデルの3地区（高齢者が多い地区、一般地区、転入者の多い地区）と類似する地区は、市内に他多くありますので、他の地区でも実施できるように、まとめた資料等を参考にして、来年度も取り組めるように話し合っていきたいと考えています。

(1) アドバイザー派遣事業の検討経過

日時	出席者	内容・助言	助言に対する対応
平成 25 年 8 月 6 日 (火) 9:30 ~ 11:40	市：介護支援課長、包括担 当リーダー、介護保険担当リーダ ー、包括保健師 7 人、社会 福祉士 社協：地域福祉課長 県：アドバイザー山梨学院 大学法学部政治行政学科 竹端寛先生、長寿社会課上 田、中北保健所橋爪	1．地域ケア会議の現状と課題について 2．これからの取り組みについて 助言：地域ケア会議は方法論。会議をすることが 目的になっていないか。そもそも小地域ケア会議 はしなければならないのか。専門家が考えている 問題意識を住民が持っているかどうか、課題を課 題として感じているのか。今後、モデル地区を 2、 3 作り、地域に「御用聞き」に行ったらどうか。	・モデル地区で住民の話を 聞く機会を持つ(御用聞き) ・モデル地区への取り組み は包括と介護保険担当と複 数で関われるように課内調 整をする。 ・各地区民生委員が感じて いる地域課題 8~9 月にア ンケートで確認する。
平成 25 年 11 月 13 日 (水) 16:00 ~ 18:30	市：介護支援課長、包括担 当(指導監、リーダー、保健師 7 人、社会福祉士)介護保 険担当 3 人、福祉課長、福 祉担当リーダー 社協：地域福祉課長 県：アドバイザー、長寿社 会課	1．地域での取り組み経過・報告等 民生委員アンケートと聞き取り結果 モデル地区での取り組み(御用聞き) 2．これからの取り組みについて 助言：民生委員については聞き取った声をどう生 かすのか考える事。小地域ケア会議は地区の物語 を聞くことが必要。標準化で画一化されたもので はダメ。その地域にあったアプローチの仕方があ るのでは。3 か所のモデル地区ではそれぞれ違っ た形で地区に関わってきた。アドバイスをもとに もう少し地区での関わりを持ってほしい。	・検討した事をもとに、モ デル地区担当者が今後の取 組みを検討する。検討し た結果によりモデル地区へ の関わりを来年 1 月下旬頃 までに行う。 ・モデル地区の取り組み結 果の報告は来年 2 月上旬頃 に行う(第 3 回検討会の開 催)
平成 26 年 3 月 17 日 (月) 16:00 ~ 18:15	市：介護支援課長、包括担 当(指導監、リーダー、保健師 7 人、社会福祉士)介護保 険担当 1 人 社協：地域福祉課長 県：アドバイザー、長寿社 会課	1．地域での取り組みの経過・報告等 モデル地区の取り組み(御用聞き) モデル地区取り組みのまとめと考察 2．これからの取り組みについて 助言： 3 つのモデル地区での取り組みから見 えてくる事、展開できることを考える事。次年 度へ向けて地区の展開へのつながりがあるの で継続してほしい。包括がとる責任、市が取る 責任を整理すること。北杜市としての地域ケ ア会議を考える事。市の地域ケア会議でこの取 組みを出していくべき。他の地域でも小地 域ケア会議に取り組む時には、モデル地区の取 組みを紹介し、地区から手あげてもらえる ようにしていく事も必要ではないか。	・モデル地区の取り組みを まとめた資料をもとに、今 後の小地域ケア会議につい て「地区の単位、範囲」「地 区への入り方、方法」「小地 域ケア会議の方法」会議の 結果の展開」を今年度中に 整理・検討し、平成 26 年度 以降の取り組みを決めてい く。モデル地区の地域への 関わりは継続していく。

(2) モデル地区等への取り組み

民生委員アンケートと意見交換会

月1回行われる民生委員協議会には地域包括支援センターの地区担当が出席しており、関係性がとれていました。民生委員活動を通じて把握した地区の状況についてアンケートを実施し、その結果をもとに、聞き取りや意見交換を行い、地区の事について一緒に考える場を作りました。民生委員から「このような会議は、今までなかった。今後もこのような場を作って欲しい。」「このような話し合いをもっと早めにして欲しかった。」との意見もあり、来年度の実施も検討しています。

モデル地区の御用聞き

モデル地区を須玉（高齢者の多い地区）、武川（一般地区）、小淵沢（転入者の多い地区）の3か所とし、地域包括支援センターと介護保険担当が3グループに分かれ、検討を重ねながらモデル地区の御用聞きを実施しました。

視点 \ 地区	須玉町 増富地区	武川町 宮脇地区	小淵沢町 大東豊地区
モデル地区の選定視点	<p>高齢者の多い地区（限界集落）</p> <p>人口：509人</p> <p>高齢化率：64%（H25,4.1現在）</p> <p>・区長から地域の住民の生活の活性化などについて以前から相談がある。</p> <p>・急速な高齢化が進み、将来、市全域が迎える高齢化の現実直面している。</p> <p>新住民といわれる方は少ない地域である。</p>	<p>一般地区</p> <p>人口：277人（65歳以上97人）</p> <p>高齢化率：34.7%（H25,4.1現在）</p> <p>・武川町の南に位置し葦崎市との境の地区であり、町中央のスーパー・温泉・公共施設へのアクセスが不便である。</p> <p>・町内で前年度のはつらつシルバーの集い未実施地区（唯一）。今年度より替わった保健福祉推進員から開催の相談がある。</p> <p>・歩いて行ける公民館で介護予防の検証をしたいため「公民館カフェ」の検証を依頼した地区。</p>	<p>転入者の多い地区</p> <p>人口：570人</p> <p>高齢化率：31.8%（H25,4.1現在）アドバイザー派遣事業にて、北杜市の特徴的な三つのテーマ</p> <p>高齢者の多い地区（限界集落）</p> <p>転入者の多い地区</p> <p>一般地区</p> <p>を挙げた。</p> <p>の転入者の多い地区として選定した。</p>
地区への入り方・方法	<p>区長からの相談があり、介入することになる。</p> <p>区長への聞き取りを行い、具体的な地域への思い、地域の現状を知る機会を作った。</p> <p>地域への介入の際には、民生委員に協力を依頼した。</p>	<p>保健福祉推進員さんと打ち合わせ</p> <p>事前の話し合いを宮脇公民館にて開催</p> <p>参加者：包括2名・保健福祉推進員2名・公民館主事・老人会長・地区の食生活改善推進員等</p>	<p>転入者の多い地区の選定にあたり、小淵沢総合支所の方と話し合い選定。</p> <p>地区介入にあたり区長と保健福祉推進員に今回の取組みについて説明。地域の方の想いを聞く機会について区長や</p>

視点 \ 地区	須玉町 増富地区	武川町 宮脇地区	小淵沢町 大東豊地区
	 <p>地区巡回 (日向公民館)</p>	<p>内容：話し合いの持ち方 進め方など打ち合わせ</p>	<p>保健福祉員からの提案があった。</p> <p>⑦新旧の役員会の時</p> <p>⑧老人会役員会の時</p> <p>⑨地区に加入していない転入者への声かけを行い、想いを聞く機会を作る。</p>
地区に入ってみた結果や成果	<p>地域からのSOSへの介入であり、地域の理解が得やすかった。</p> <p>区長から、地域の事前情報(現状や、地域の有力者など)が得られたため、全体像をイメージして地域に入ることができた。</p>	<p>包括で提案し「武川町宮脇地区で元気に暮らし続けるための語る会」を開催することとなる。その際、「公民館カフェ」「はつらつシルバー」「高齢者食事会」を合同で開催し多くの住民に参加してもらったらどうかということになった。チラシを作成し、保健福祉推進員(2名)で高齢者宅へ全戸配布してくれる。区長・老人会長・公民館主事・民生委員・食生活改善推進員・愛育会等には包括よりチラシ持参または通知・電話で参加のお願いをすることとなった。</p>	<p>地区の区長さんや保健福祉推進員さんに今回の聞き取りについての趣旨を説明し、賛同を得て開催したため役員さんの協力がありスムーズに開催できた。</p> <p>聞き取り開催後アンケートを行う</p>
御用聞きの方法	<p>1 地区を巡回しての高齢者への聞き取りの実施(10月~11月)</p> <p>目的：増富地区に住んでいる高齢者の思いや歴史を確認・共有</p> <p>会場：公民館9会場</p> <p>対象：65歳以上の住民、区長 班長・民生委員・保健福祉推進員</p> <p>協力：民生委員さんに協力を依頼。</p> <p>スタッフ：包括、介護保険担当</p>	<p>1「武川町宮脇地区で元気に暮らし続けるための語る会」にて高齢者の聞き取りの実施(2月3日)</p> <p>会場：宮脇公民館</p> <p>対象者：65歳以上の住民 9組</p> <p>話し合いの持ち方：保健福祉推進員から地区の繋がりがあるため話し合いは組み別で班編成をしたらどうかと提案があり、1・2組、3・4組、5~7組、8・9組の4班に分けた。参加者31名</p> <p>4班に包括・健増・社協・介護予防サポートリーダーが聞き取り</p>	<p>「大東豊地区で安心して元気に暮らすための語る会」</p> <p>ア新旧役員会にて聞き取り(2/1)</p> <p>会場：大東豊公民館</p> <p>対象：新旧の区長・副区長・組長・民生委員・保健福祉推進員 20名参加</p> <p>スタッフ：介護支援課・健康増進課・社会福祉協議会担当 (イ・ウ同様)</p> <p>内容：情報提供(国や北杜市の状況)、話し合い。区長より意</p>

視点 \ 地区	須玉町 増富地区	武川町 宮脇地区	小淵沢町 大東豊地区
	<p>2 増富地区へかかわりを持つ 組織関係者聞き取り(11月～12月)</p> <p>目的：関係者の増富地区へのかかわりの現状を把握する。関係者とのつながりを作る。</p> <p>ア北杜市役所内関係課の聞き取り</p> <p>イ増富地区の関係団体への聞き取り(増富ラジウム峡観光協会、護持の里たまゆら、増富温泉関係)</p> <p>⑤高齢者への聞き取りの結果報告の開催(12月18日)</p> <p>目的：高齢者の思いを地域住民で共有する場</p> <p>会場：増富出張所</p> <p>対象：65歳未満の住民(20歳以上)</p> <p>区長、班長、民生委員、保健福祉推進員</p> <p>スタッフ：包括、介護保険担当</p> <p>関係者：須玉総合支所、増富出張所、社協</p>	<p>役で入る。</p> <p>方向性：今回の報告会と今後の方向性の話し合いを3月3日に宮脇公民館にて実施予定とする。</p> <p>「語る会」「公民館カフェ」の報告会を3月3日実施</p> <p>会場：宮脇公民館</p> <p>参加者：地区住民21名</p> <p>話し合いの内容：「2/3語る会」「公民館カフェ」の報告会と今後の方向性についての話し合い。</p> <p>「語る会」「公民カフェ」の話し合いの中で住み慣れた地域で元気に暮らし続けるためには地域の交流が大切・集まる機会が必要との意見が多く、今後も「公民館カフェ」を月1回継続して実施することとなる。</p>	<p>見が言えなかった人がいるとアンケート依頼あり、後日アンケート実施。</p> <p>④老人会開催時間聞き取り(2月25日)</p> <p>会場：スパティオ小淵沢 森樹</p> <p>内容：会の開催趣旨の説明、情報提供、地区について感じている事等聞き取り</p> <p>⑦区未加入者への聞き取り</p> <p>「北杜市で元気に暮らし続けるための語る会」</p> <p>1回目：1月29日</p> <p>会場：フォーシーズンハケ岳高原</p> <p>内容：転入後年数、転入理由・相談相手の有無等アンケート、開催趣旨説明、今感じていること、不安なことなどの聞き取り。</p> <p>今回をスタート地点として、継続的にこの機会を設けていく事になった。</p> <p>2回目：2月27日</p> <p>会場：フォーシーズンハケ岳高原</p> <p>内容：2月の雪害に対する対応を聞いた。学校の防災対策から雪かき、区への加入する事等幅広い意見が出た。</p> <p>次回は4月24日を予定</p>
			
			

視点 \ 地区	須玉町 増富地区	武川町 宮脇地区	小淵沢町 大東豊地区
実施した結果や成果	<p>1 公民館単位での聞き取りをすることで、住民が、地域を自分事として考えることができた。増富地域に住む人の直接の声(不安や増富の良いところなど)を聞くことができた。地区役員が参加することで、今後取り組みたいことへの先導役となってくれた地域もあった。役員とのつながりをもつことができた。地区住民に包括を周知できた。</p> <p>2 市役所内で地区に継続的に関わりのある部署はなかった。地区内で活動するグループの情報や繋がりを持つことができた。</p> <p>3 高齢者の思いを伝え、若い人も同じ思いだということが共有できた。増富の今後を考える場となった。</p>	<p>「2/3 語る会」で話し合われた事定期的に人と交流をはかることが地域づくりで大切。</p> <p>老々介護や60歳過ぎでの独身の方の老後の事を考えていかなければならない。</p> <p>一人暮らしの方の見守りをどのようにしていくか考えていかなければならない。</p> <p>少子化対策が必要(武川町全体で前年度の出生が5人数年前は30人)</p> <p>3月3日の「語る会」「公民館カフェ」の報告会で、「公民館カフェ」を4月からも継続開始する方向となった。(月1回)</p>	<p>⑦役員が若く40代・50代の方にも今回の開催の理解や賛同も得られた。</p> <p>アンケートから趣旨は理解できた、どのように取り組んだらいいのかと一歩進んだコメントがみられた。災害をイメージして地域力を考えるといいとの意見があった。</p> <p>⑧地域住民との交流は少ない、運転ができなくなった時が困る、災害があった時やゴミ出しの対応について困るなどの意見が出された。</p> <p>このような会議は初めて、今後の生活について定期的に会議を行い、コミュニティーの形成を行うことが必要であると確認でき次回の開催が決まる。</p>
実施して分かった事、発見した事	<p>・地域の実態を知るには、実際に生活している住民の生の声が必要。地域住民が自主的に活動できる地域の単位は旧集落単位だと感じた。増富地区は少子高齢化が進み、限界集落と言われているが、声掛けや見守りができ、近所のつながりも残っており、地域の力があると感じた。</p> <p>・地域に介入するには、まずその地域のことを知る必要がある。また、最後までフォローする責任と、体制作りが必要だと</p>	<p>「語る会」の計画段階で地域の保健福祉推進員や民生委員・公民館主事等と話し合いを重ねる中で、地域を知るきっかけづくりができた。地域に介入するには、その地域の歴史を知ることが大切と感じた。何も知らなくての御用聞きでなく、介入側も予備知識と予測をもって介入することが大切と感じた。そのことを通じて介入する側も興味深く介入できた。今までは個々の対応が多かったが、今回は課を超えて、また市役所・住民という立場を超えて、地域の</p>	<p>未加入者に対し、自分たちに嫌な先入観があった。しかし実際には協力的であった。今後のことについても考え、心配していた。(転入者、区民に区別はなかった。)</p> <p>アンケートをしたことで、率直な意見を全体から聞くことができた。</p> <p>地区に対しての愛着を聞く、区に加入していない人は、自然や環境がいいからと答えていたが、区民は環境や自然の他に、人との関わりがあり情報</p>

視点 \ 地区	須玉町 増富地区	武川町 宮脇地区	小淵沢町 大東豊地区
	<p>感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの過程として、住民主導で地域が動くようなサポートの仕方（最初はリーダー、徐々にファシリテーターとなり地域を見守っていく）について学んだ気がする。 	<p>繋がりや転入者の事・高齢者の事・子供の事など、宮脇地区の話題を話し合うことができた。</p>	<p>も得られとても良いと答えていた。</p>
今後の地区への関わり	<p>増富地区としては、住民主体でできる取り組みを公民館単位で行っていく。市として実施をフォローしていく。</p> <p>高齢者の聞き取りの際に提案があった地域でできそうなこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さんから布草履作りの提案があった。（他2地区希望） ・民生委員から、集まりは必要で、自分が音頭を取ってもよいとの言葉あり。 ・はつらつシルバーの開催 ・施設を気軽に借りられたり、お茶菓子のことなど、自分たちで集まりやすいシステム作りをしたい。 ・カラオケに来てほしい。送迎をしたり日中開催したりと工夫したい。 ・婦人部の掃除にできるだけ多くの人に参加してもらい、お茶のみの場にしたい。 ・蕎麦屋で食事会をしたり、寒い時期のお茶飲み会を計画している。運動や輪投げやお茶の会をしたい。 	<p>当初、小地域ケア会議の圏域単位として武川町全体を考えたが、実際は地域に関わることで武川町の9地区毎での開催を視野に、その1地区で小地域ケア会議を開催した。小地域ケア会議は、地域をどういう単位として開催するのか考える必要がある。</p> <p>小地域ケア会議を「語る会」として、「はつらつシルバー」「公民館カフェ」と同時開催とした。対象者が高齢者中心になってしまったので、若い人からの意見を聞く場を設けたほうがいいのか検討していく。</p> <p>この地区では「語る会」等の地区の集まりに男性の参加者が多い（男女半々）その参加率のよさを探ると今後の参考になる 参加勧誘は男性が多く、誘うのが上手との意見がある。</p> <p>「公民館カフェ」は4月以降も月1回継続することになったが、地域主体で継続していけるように支援していきたい。</p>	<p>区の役員・老人会・転入してきた方に聞き取り調査「小地域ケア会議」を行ったが、よりよい生活を行うためには人との関わりや地域力が必要。地域力を向上するためにはどのようなことが必要なのか災害を想定した中で考えていくことが好ましいのではないかと各グループで意見が出た。</p> <p>区民、区未加入者それぞれの会議を定期的に行う支援しながら、お互いの思いを話し合う場を設ける。</p> <p>地域力を高めるための方法を住民と一緒に検討する</p>

視点 \ 地区	須玉町 増富地区	武川町 宮脇地区	小淵沢町 大東豊地区
	<p>花豆の前後の時期に年に1・2回でも集まるか、かるた会を3か月に1回くらいするか等地区役員会で検討したい。</p> <p>増富地区の現状課題を北杜市地域ケア会議に報告し検討していく。</p>		 <p>老人会語る会</p>  <p>新旧役員会</p>

「はつらつシルバー」：各地区の公民館を活用し、保健福祉推進員を中心に集いを企画し実施する事業。実施は社協に委託

「公民館カフェ」：高齢者が自ら歩いて行ける公民館において、地域の関係者や介護予防サポートリーダーが主体となって介護予防をできる場づくりについて、実施を検証している平成25年度研究事業

須玉町増富地区

人口：509人 高齢化率：64% 高齢者独居率：41%

年代等	0~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100~	独居高 齢者数	認定 者数
人数	7	14	22	27	29	47	122	113	139	42	6	120	86

地域の現状	課題	今後
<p>【悪いイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と話すことが少ない。 ・人に会うことがない、寂しい、孤独 ・昔のような地区の集まりがなくなった。 ・集まるきっかけがない。 ・交通機関がない。デマンドバスの廃止。市民バスは不都合。 ・各地区が孤立し、交流の機会がない。 ・イノシシやサルなどによる、農作物の被害。作っても荒らされ、その対応も大変だし、作る気力がなくなる。 ・若い人が少ない。 <p>【良いイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声掛けや見守りが浸透している地域がある。 ・豊かな社会資源があるので、再利用してほしい。 ・地域の結束力がある。 ・移動販売や、巡回診療がきてくれる。 ・婦人会や老人会、ゲートボールなどの集まりがある。 ・週末や月に数回子供が来てくれて、買い物や受診に連れて行ってくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は人と会う交流の機会が少ない。 ・働く場所がなく、子供は外に出て家を建て帰ってこないで、若い人が少なく、地域が廃れていく。 ・病院受診や買い物など施設が離れているので、移動は車が必要。現在自分で運転できている人も数年立つと運転できなくなる可能性があり、移動に不安を抱える。  	<p>集まりたい、集まる機会を作りたいという地域が多かった。定期的に集まる機会を作っていきたいが、地区ごとに抱える背景が違うので、各地区に合った方法を検討していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことをしたらよいかわからない。 ・先立って集まりを開いてくれる人がいないなど <p>【具体案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婦人会の掃除や老人会の集まりなど、既存の集まりの回数を増やしていく。発展させていく。 ・新たな集まりの機会を設ける。 ・日向・日影・和田地区では、民生委員さんの提案もあり、公民館で、布のわらじ作りを始めていく。(いらなくなった布の再利用、集まるきっかけとなり、閉じこもり予防になる。自宅でも取り組むことができる。自宅内で履くことで掃除になる。履くことで指が開くので健康にもなる。日向では、旅館で売ってもよいのではという話も出て、誰かが履いてくれることで張り合いにもなる。汚れたら、すぐに捨てることができる。などの利点がある。)この活動が、地域全体の取り組みに波及できるとよい。

武川町「宮脇を語る会 報告会」平成26年3月3日

・組ごとの話し合いより出されたこと

1、2組 8名 3、4組 9名 5、6、7組 8名 8、9組 5名

参加者 計31名

宮脇地区で安心して

暮らすために必要なこと

- 人と会って話すことが介護予防につながる。
- 安全に安心して暮らすのに大切なのは「交流」。
- 安心して暮らすためには、普段からのつながりが大切。
- 若者男女が集まるのは、年3回の行事の時だけ。7割くらいの人が集まる。企画を立ててくれれば集まれる。
- 若い世代（育成会）と老人の世代の交流する機会が必要。（昔は婦人会があったので新しいお嫁さんのことはわかっていた）。男性は区の総会など会う機会があるが、女性は少なくなってしまった。
- 認知症予防のためにも気軽に集まる場所がほしい。参加する人は固定している。参加しない人が心配。
- 施設に入れない人や長期に入院できない。在宅で介護するとき24時間体制で利用できるヘルパーなどの事業所が必要。
- 独居老人が増えるので安否確認ができる制度。民生委員さんだけでは無理なので地域の方と協力しながらする体制づくり。
- 住民自らも企画していくことが必要。継続していくには何が必要か考える。
- 子どもに頼るだけでなく、自分のことは自分でする。自分で健康管理をする。
- 武川だけでなく、他町でうまくいっている取り組み事例について紹介してほしい。
- 働く場所。
- ライフラインの整備。

- 2月14日の大雪では、区長の呼びかけで多くの人が集まり、道や高齢者宅の雪かきを実施“団結力”があります。

宮脇地区の良いところ

- 同居率、高齢化率が高い。長生きしている人が多い。
- 高齢の親と同居しており、近所の方に事情を話し見守ってもらって良かった。
- 一人暮らし。昨年骨折した。毎日運動を頑張っている。杖を使わないで歩けるようになった。近所の人話し相手や見守りに毎日来てくれている。介護保険も該当になったが、良くなったので更新しないでいい。とても歩きが良くなり先生も驚いていた。
- 仲良しグループの間の声掛けをしている。鎖より強い繋がりがある。野良仕事運動。
- 事業をする時の集まりはよい。
- 歩いている人が多い。
- 役員の方の声掛けが上手で、積極的に声をかけてくれるので出やすい。
- 個々のウォーキング・同級生などの無尽が盛ん。閉じこもってはいない。



公民館カフェ

- 男性参加者が他の地区に比べて多い。
- 1回来れば(きっかけがあれば)継続できるかもしれない。
- きっかけは健康に関することだと興味がある。
- 多くの人の集まる機会が少ない。同じ趣味の集まりはしている。ゲートボールも数人の有志でやっている。集まればためになるし知らないことも知る。しいだけをつくるから木を集めに行くとか、運動のために30分コースを歩くなど「〇〇の為に集まる」というきっかけがあると男性は集まっている。
- 参加できることが良いが鍵の開け閉め等を誰が行うのかなど問題がある。

その他の意見

- 資料(武川町と宮脇の子ども・大人・高齢者の様子)が具体的にわかりやすい。今日のような資料を区民全体に知ってほしい。
- 趣味を同じくする小集団での集まりが盛んで、若者男女が集うお祭りの行事は年に2~3回しかない。
- 今の家には「エンサ」がなくなった。以前はお客さんが来ると「ちょっといいじゃん、かけろし」と言いながら話が弾んだ。
- 生活がよくなったので、楽しみが変わった。テレビや小説や一人でも楽しめる時代になった。
- 人口構造がアンバランス。若い世代、子どもが少ない。若い人がいないと始まらない。限界集落はよその話ではないかもしれない。
- 雇用の問題。仕事がなければ若い人は定住しない。

北杜市地域包括支援センター

大東豊まとめ

	移動手段について	区民・区未加入者との関わり	行政や行政区に対して
区新旧役員		<ul style="list-style-type: none"> ・区未加入者と連絡体制が取れていない。 ・転入者との関わり、意識の共有・情報を共有したい。 ・転入者との考え方のずれを感じる。 ・地元や近所の方と関わりにくいと転入者は感じているのではないかと感じる。 ・地域の活動に参加しない。 ・面倒くさがりのわりにみな孤立感を抱えているのではないかと感じる。 ・転入者も地域の状況を知ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者が区に加入しないのは役が原因だと思う 区には入らない人は絶対に入らない。 ・区に入ることの本来の意味は、ゴミだとか役とかの以前に、みんなとの助け合い。 ・区に入ると地区住民との関わりがありいろいろなことが大きく変わる。 ・特別組員制度について
老人会	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドバスの廃止、もっと住民の意見を聞いてきめ細かな対応してほしいかった。 ・病院受診や買い物などの交通手段がなくなり今後不安を感じる。 ・甲陽病院の運行バス大東豊にも来てほしい。 ・富士見高原病院はきめ細かく運行バスが巡回している。北杜市はできないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの方いると数件しかしかなかった。32件もいて驚いた。未加入者でほとんどで関わりはない。 ・人と顔を合わせても住民なのか旅行者なのかかわからず声がかげにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者が多い地域。行政も積極的に区加入について説明してほしい。(入る入らないは別として) ・転入時区加入の条件などを設けてもいいのではないかと。 ・土地分譲業者にもメリットを話しつつ区加入を勧めてほしいと行政から話してほしい。
区未加入者(転入者)	<ul style="list-style-type: none"> ・今は車の運転ができているが、運転ができなくなった時の不安感がある。 ・運転出来なくなったらタクシーでいいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元からの住民との関わりはない。 ・関わりを持たば助けてくれる人もいる。 ・近所の方との交流が多少ある。 ・元からいた住民にも転入者に対する不安などがあるのではないかと。 ・旧・新という区別をやめなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京など都会は区加入に関係なくゴミ出しができた。 ・市は雪かきを区民しかしていない。 ・コミュニティの形成は行政の役割 ・市はどの程度住民の情報を把握しているのか疑問。 ・税金を納めているのに、区に属しないと市の情報が得られない。 ・高齢者はゴミ出しも大変

	災害時の対応について	コミュニティについて	意見・感想
区新旧 役員	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ・福祉マップを昨年作った ・防災マップを作ることで、在住者の確認ができると思う ・大規模災害を想定することで何か考えやすいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政にできることは限りがある。地域住民の力を高めていけたら ・回覧板の順番を変えたら知らない人と話す機会が増えた ・近所、気に掛けられる範囲でお互いの声掛けをする。 ・地域力自主性に任せておいてもなかなかあがらない。 行政が引っ張るか押し上げるかしてほしい ・個々・少数のコミュニティがある人・地区での関わりのある人の3パターンがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先のことを考えたくない人や何かあった時に考えればいい、どうにかなるという考え方の人も多いのではないか ・地域づくりの成功例を教えてください。
老人会	<ul style="list-style-type: none"> ・区未加入者は把握できず、消防でも緊急時の対応ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でやりたい人を募って、地域の方々のために何かボランティアをしたい。 ・まずは区民なることが第一 ・お互いに助け合い絆をしっかりと手を取り合っていくことが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の住宅地図がほしい。(どこに誰がいるか知りたい。) ・都会育ちの方々とは意見が違い、親身に付き合えない
区未加入者 (転入者)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害があった時が不安。区未加入者、住民票のない人はどのように把握するのか。 ・区未加入者の中で防災の連絡網作成を検討している。 ・災害が少ない地域など危機感や防災意識が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティの構築が必要(公助もだけど自助・共助だと思う) ・このような会議を継続的に続けてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護のことを何でも話せるグループを教えてください ・健康なときはいいが動けなくなった時が心配。

2 「地域づくりにつなげる自立支援型ケアマネジメント支援の取り組み」

舟久保美幸（富士吉田市地域包括支援センター）

富士吉田市では、H25年度の地域ケア会議を推進するにあたりH24年度から取り組みを行っていました。

H24年度においては、山梨県地域包括ケア推進アドバイザー派遣等事業を活用しました。介護保険給付適正化事業の一貫として、

(1)地域包括に対しては「ケアプラン点検支援の視点・進め方」について、あたご研究所の後藤佳苗先生から講義を受けました。地域包括ケアシステムの構築に向けて、適切なアセスメントに基づきプランが作成されているか、自立支援につながる計画になっているか等を保険者・包括がケアマネジャーと共に検証する点検支援の視点や進め方についての研修を受けました。

(2)ケアマネジャーに向けては、「ケアマネジメントのあるべき姿」と題し、マネジメントの定義や過程についてなど講義をしていただきました。法的な根拠を再確認するとともに事例演習を行い、自立支援に向けての学びの深まりがありました。

この後、年間を通じて、介護保険担当、地域包括支援センター保健師と主任ケアマネジャーが、ほぼ全員のケアマネジャーと個別ケースを使ってアセスメント・プラン・モニタリングという一連のケアマネジメントについて一つ一つ丁寧に確認作業を行いました。

平成24年度の取り組み

- ・山梨県地域包括ケア推進アドバイザー派遣事業の活用：ケアプラン点検支援の視点・進め方についての学び
- ・ケアマネに向けて、ケアマネジメントについての講義
- ・地域包括支援センターの主任ケアマネによる、「ケアマネジメントの手法・サービスのあり方の確認」

なぜケアマネジャーに焦点を当てたのか・・・

- (1) 住民に近い存在であり、多くの住民との関わりがあること。その分個別の課題を多く承知していること。
 - (2) 富士・北麓地域には熱心でまじめなケアマネジャーが多く、スーパービジョンの方式で自ら研修を行っているグループがあったこと。
- 以上の点から、ケアマネジャーの力量アップがよりよい地域づくりへ即決すると考えたためです。

平成25年度の取り組み

- ・H24年度のケアマネに対するケアマネジメントの学びを拡大し、地域ケア会議に発展。
- ・H25.9月 ケア会議を開催するにあたり「困難事例を通して考える地域課題」について伊藤先生から講義をいただく。
- ・H25.10月～月1回、地域ケア会議を開催
- ・地域ケア会議、開催準備における地域包括の役割の明確化

H24年度の学びを拡大し、地域ケア会議に発展させました。定期的に包括が主催して、関係する職種および関係者で地域づくりを意識した個別ケースの地域ケア会議を開催しました。また、アドバイザーである伊藤先生からの講義については地域ケア会議の必要性やケアマネジャーの役割等について詳しくお話をいただきました。

地域ケア会議開催準備としては、事例提供者を決めること、事例提供するケアマネジャーに対し資料作成のサポートをすること、参加者に資料を渡すこと、当日の司会・進行、会議への参加があります。

地域ケア会議の目的

- ・関係者に介護予防の視点を身につけ資質向上につなげる。
- ・標準化したケアマネジメントを可能にする。
- ・ケアマネに繋がる利用者や住民の意識の底上げ(地域力アップ)につなげる。
- ・地域ケア会議による「地域課題発見機能」の役割を身につける。

政策形成への提言

地域づくりのための住民への提言

この目的があることで、地域ケア会議で個別課題を積み重ね、地域課題へと変換して問題提起することで、政策形成への提言・地域づくりのための住民への提言につなげていきたいと考えています。

地域ケア会議の開催

- ・ 処遇困難な事例を中心に月1回開催。
- ・ スーパービジョンの手法により、事例を共有、問題のありかについて意見交換。
- ・ 会議時間：1事例につき、概ね3.5時間。
- ・ 会議構成員：ケアマネ、保険者、サービス事業所、社協、地域包括
- ・ その他のケアマネ（各事業所から1名ずつ会議の見学参加）

処遇困難な事例を中心にスーパービジョンの手法をとって、伊藤先生の進めにより事例を共有し、困難をきたしている問題のありかについて意見交換をしています。

会議時間は1事例につき、おおむね3.5時間をかけています。このような時間をかけて行うことで、本人やその周辺を取り囲む支援者像をより具体的に知ることができ、生い立ちや価値基準、根本にあるニーズを全員が共有することができます。

会場レイアウト



中心は会議の構成員で、周辺はケアマネジャーです。各事業所から1名ずつ選抜してきています。当初は、周囲のケアマネジャーは見学をしていただくというスタンスで進めていく予定でしたが、現在では広く意見をいただきながら行っています。

【地域ケア会議を行ったことによる成果】

地域ケア会議の成果

【ケアマネの資質向上】

- ・ケアマネが「地域ケア会議」の位置づけを理解できつつある。
- ・ケアマネ自身がケアマネジメントに対する自分の弱点に気づく機会になっている。
- ・地域ケア会議に参加することで、自分のケアマネジメントに活かしている。
- ・定期開催することでケアマネの会議に臨む意識が向上した。

上記にある「位置づけ」とは、サービス担当者会議との違いやなぜ「地域ケア会議」を行う意義があるのかという部分をさしています。

地域ケア会議の成果

【社会資源の開発】

- ・インフォーマルサービスのスピーディーな開発につながった。

【参加者全員】

- ・利用者に対しての丁寧なアセスメントが最重要であることが再確認できている。
- ・参加サービス事業所等にもケアマネジメントの重要性について波及効果が得られている。

会議の中で出た課題を共有し、お互いの役割分担を再確認したからこそ、家族会の「介護者のつどい」の実施などスピーディーな住民サービスの開発につながった経緯もあり成果も出てきています。

参加サービス事業所等（ケアマネジャー、包括、社協など）はそれぞれケアマネジメント力の向上やより良いサービスの提供、ケアマネジャーの役割の明確化など、お互いの役割を認めてより尊重し合えるようになっていきます。

【今後の課題・方向性、包括の役割など】

今後に向けての課題

- ・現在、参加者の資質向上段階。
 - 地域課題発見機能の確立
 - 地域づくりのための住民への提言
 - どのタイミングで地域に合ったサービスづくりを行うか（予算・マンパワー など）
 - 地区ごとのランチでの地域ケア会議の開催
- ・医療との連携
 - 医療従事者にも会議への参加を依頼したいが・・・

参加者の資質向上について

これまでの会議を通じて、地域課題として独居の問題、認知症増加の問題、男性介護者へのフォローアップの問題などがあるのではないかと参加者が認識しつつあります。これからは包括として数値的な裏づけを積み重ね、今後そのような発見機能を確認していきたいと考えています。また問題が挙がってきたところで関係者のみではなく、地域住民の方とも問題点を共有していき、ともに地域づくりについて一緒に考えていけるように問題提起していきたいと思います。

さらに行政の立場としては、どのタイミングで地域に合ったサービスづくりを行うかについても検討していかなければならないと感じています。

市には4ヶ所に地域包括支援センターランチがあります。地域づくりの根幹を私たちとともに担っているため、できれば4ヶ所すべてで会議開催ができるようにしていきたいと思っています。まずはモデル地区を決めて細やかに対応していくなど徐々に拡大していく方向で検討しています。

医療との連携について

富士北麓地域には「富士北麓認知症を考える会」があります。医師会、薬剤師会、看護ステーション、ケアマネジャー代表、家族会、包括などが参加しており、取り組みを進めています。現在では都合により、活動を中断していますが認知症という切り口で医療との連携が進められている状況があります。医師会とも相談しながら、早急に活動が再開していかなければならないと考えているところです。

地域ケア会議にも本来であれば医師や看護師にも参加してもらいたい思いはありますが、時間的な問題等から現在では窓口担当者からの聞き取りで対応している状況です。今後はそのやり方を考えたり、医師・看護師の意見をどう反映させていくのかを検討していきたいと思います。

今後に向けての課題

- ・スーパーバイザーの力量によって会議の進行・学びの深まりが異なる。
地域包括スタッフの力量アップに向けた取り組み。
- ・会議実施後のケアマネに対する個別的な助言、フォローアップ。

現在、伊藤先生にスーパーバイザーの役割を担っていただいております。今後は地域包括全員がスーパーバイズできるように先生の手法を学び、力をつけていきたいと考えています。

また、会議のあとにその都度アンケートをとって、学びの成果は十分把握できています。その他、難しかったことやもっと学びたいことなどについては、現在では聞いてそのままになっている部分もあり、すべての意見、質問には対応しきれていない状況があります。この地域のケアマネジャーは自主グループを作り、伊藤先生のスーパービジョンを地域ケア会議とは別に積極的に学習しています。これもこれまでに述べた成果を挙げる1つの要因になっています。

そのような熱心さも伝わる中で、今後はさらに丁寧に1人1人のケアマネジャーに対応をしていく方針です。

これまで会議を行う中で1回1回の学びの内容が違ったり、その学びが深まっています。また会議での学びを実際に自分のケアマネジメントに活かそうとする姿も見られています。定期で行うというこだわりがあるからこそ、運営上の大変さはありますが、参加者全員の力がついていることが実感できており喜びの方が多く感じられています。

今後も先生方や県の協力をいただきながら富士吉田市としての地域ケア会議を確立させていき、住みやすいまちづくりを目指していきたいと思っております。